

千年の森便り No.191

2019.06.19

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

5月24日（金） 晴 臨時活動日

千葉県自然観察指導員協議会（自然観察ちば）の研修会参加者22名がバスで豊英島を訪れました。坂本、新井、栗山、伊藤の4名は研修参加者でもあり、千年の森の講師でもある立場でした。植物、昆虫などに詳しい参加者が多く、ダムから吊り橋まで1時間かかるペースで、午前中はツチアケビとヒメコマツを観察し、午後はホテイ岬を往復して午後2時30分に帰路につきました。

半数近くの方は豊英島来訪が初めてで、吊り橋が印象的だった、特徴的な植物を数多く見ることができ楽しかった、丁寧な解説が勉強になったなどの感想がありました。

なお、ヒル被害が1名、帰宅後にマダニに気づき皮膚科で切開したとの連絡が1名ありました。（伊藤）



熱心に解説する新井さん

種名不明の植物調査の臨時活動

昨年6月撮影された種名の分からない植物の搜索と観察調査のため臨時活動を行い、あわせて植物や昆虫の調査を行いました。調査結果は定例活動日の記録に合わせて記載します。

6月2日（日）晴 参加は栗山、真鍋、6月7日（金）雨 参加は新井通子、中田真也子、田島

6月14日（金）曇 参加は新井通子、田島、栗山、真鍋、

6月9日（日）曇 定例活動日

活動の記録

豊英島へ向かう途中のカーラジオは千葉県南部における午前の降水確率は40%、午後50%と予報していました。当日予定のシカ調査だけでも済ませれば上出来と思っていましたが、幸い雨に合わずに済んだので、ヒメコマツの保護や水辺のゴミ回収などすべて予定通りに出来ました。

見渡す限りの深い緑が目を楽しみ、蒸し暑さも感じない気温で活動しやすかったと思います。5月から6月は臨時の調査や外部団体の研修受け入れなど、多彩な活動が目白押しでしたが、お陰様で、どうにか乗り切れそうです。福島編集長の旗振りで冊子「豊英島の自然」増補版の発行準備も着々と進んでいます。（坂本）

参加は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、栗山、坂本、成沢、福島、細谷、松田、真鍋、村野、山口の14名。



〇ニホンシカ生息状況調査

6月活動日の最初の活動として、ニホンシカ生息状況調査を行いました。この調査は3か月に1回実施しており、今回は2019年度の1回目の調査になります。梅雨空の下、雨の心配をしながら、いつものように島内を7コースに分けて一斉に踏査を行いシカの生息状況を調査しました。

調査時間は10時から約30分で、足跡、フンなどの痕跡を含め調査を行いました。今回はシカの発見はなく、足跡、フンも確認できませんでした。（福島）

○ヒメコマツ植栽地の草刈り

生存しているヒメコマツのほとんどは人の背の高さを超えていて、いわゆる下刈りは卒業しています。そのため絡みつくツル植物を丁寧に外すとともに、ヒメコマツと直接競合しているアカマツ、アカメガシワなどを伐採し、さらにブッシュとなっている部分を少し整理しました。それぞれの種名を確認しながら慎重に作業を進めると、マツブサなどの貴重種が確認でき、思わぬプレゼントとなりました。(伊藤)



○湖岸の清掃

梅雨に入り、暑い日が続いていましたが今日は、曇り空で肌寒い日でした。午前中の活動が終わり、昼食後、湖岸の清掃に、二班に分かれ私は鶴沢さんとスタート、ついでに植物の観察も、湖面には船釣りの人々、この人達を横目にゴミの回収に、栄養ドリンクのビン、空き缶(ビール缶あり)、ペットボトル、ハップースチロールの破片、空気の入っていないゴムボート(大きすぎ回収せず)……2班合わせて大のゴミ袋に3袋ゴミの多さにごっかり、減ることを願っています。植物の観察としてエビネの株増えているように思います。イチヤクソウ、新緑(深緑)、ウラジロガシの芽吹きとても綺麗でした。(細谷)

○きのこ観察

6月の千年の森のキノコはごく僅かです。あと1月待てば、沢山のキノコを観察できるでしょう。ロングランというか、せっかちなミネジメ



ミネシメジ



オオホウライタケ



不明種

シ・房総ではよく見かけるが名前の付かないフウセンタケ属のキノコ・オオホウライタケ・ヒロヒダタケ・傘の裏が管孔でなく条線のアミスギタケに似たキノコ・今年生まれたヒイロタケ・オシロイタケ・コフキサルノコシカケ・シロキクラゲを観察したのみでした。



オシロイタケ



シロキクラゲ

PS) :余談ですが、コナラの切り株に、長さ 1.5CM 程の巻貝を見つけました。ここは、水面とは縁の無い所、いったいどのような巻貝なのか、きのこ屋には、全く見当もつきません。



ヤマビルに遣られた。私はヤマビルが嫌いだし、ヤマビルも私のこと嫌いでは？(松田)

○新入会員？

お弁当タイムに少し遅れて着席すると、テーブルの上に手作りのフィギュアのような物がありました。聞けば松田さんの作品とか、顔は会員の何方かに似ていて、豊英島がキノコの宝庫であることを象徴するように両手に巨大なキノコを持っています。

きのこの豊作を授けるご神体、又は公開行事などで島を訪れるゲストを歓迎するマスコットとして活躍して貰いたいと思うので、会費免除の会員に推薦します。(坂本)



○昆虫観察記録（6月7日臨時活動）

雨が降りだす前に、ミズイロオナガシジミ(千葉県C)を見ることができました。

雨の中でも数頭のヒョウモンエダシャクが飛んでいました。また、人気のある甲虫オオトラフコガネに再会できたことはうれしかったです。



ミズイロオナガシジミ



ヒョウモンエダシャク



オオトラフコガネ♂

新井さん、中田さん、大変お世話になりました。11時頃から雨が降りだし、十分な調査はできませんでしたが、お陰様で、短時間でも調査ができたことに感謝します。（田島）

○昆虫観察記録（6月14日臨時活動）

今は一番昆虫が多い季節。天気の良い日にできるだけ虫を見ておきたいと思い、臨時活動日に参加させてい

ただきました。蛾がヒラヒラとよく飛んでおり、一番多いのはハグルマエダシャクという蛾です。去年栗山さんが巣を発見されたヤマトアシナガバチ(働き蜂)も見られました。今年もどこかで巣を作っているようです。2か所の保護柵内では、コシアキトンボが群れて



ヤマトアシナガバチ



コシアキトンボ

飛んでいました。なかなか止まらないトンボなのですが、運よく止まった所を撮ることができました。真鍋さん、栗山さん、新井さん、ありがとうございました。

(他に観察された昆虫) シオヤトンボ、ホソミオツネントンボ、アオバハゴロモ幼虫、ヒモワタカイガラムシ、モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ幼虫、フキバッタの一種幼虫、モンキアゲハ、キタキチョウ、ルリタテハ、アカボシゴマダラ、テングチョウ、コジャノメ、トラフツバメエダシャク、ヒョウモンエダシャク、セスジナミシャク、オスグロトモエ、ハリギリマイコガ、ウスツマスジキバガ、シロジマエダシャク、ギンボシトビハマキ、ヒメクロミスジノメイガ、マイマイガ幼虫、ヒモミノガの一種幼虫、ナミテントウ、クロウリハムシ、リンゴカミキリの一種、ハムシダマシ、カシワクチブトゾウムシ、ヒメクロオトシブミ、カシルリオトシブミ、トゲアリ、アミメアリ、マダラアシナガバエ、マガリケムシヒキ、ニワハンミョウ（田島）

○種名の分からない植物（シャクジョウソウ？）の観察・調査

昨年6月10日坂本さん撮影の種名不明の植物（右画像）の捜索と観察・調査のため、6月2日、7日、定例活動日の9日、14日、と4回にわたって観察・調査しました。

6月2日 昨年坂本さん撮影地点のコナラの根元にシャクジョウソウに似た植物が4本発芽。うち2本は地上部が折れ、1本は2芽弱で生育不良、1本は5センチ程度。

6月7日 10芽程度に生長し、一部黒変。

6月9日 12芽程度に生長し、開花始め。

昨年6月10日との位置の相違が気になり、昨年撮影時の周辺の立ち木など位置を確認したが、昨年と今年の自生地点は全く同じ。

6月14日 13センチほどに生長。9日に続き栗山さん苦心して撮影した花の画像を詳細に観察の結果、この植物はシャクジョウソウに間違いのないとの結論に達した。

昨年同じ地点に自生していた植物もシャクジョウソウではないかと推定される。

なお豊英島のシャクジョウソウは従来7-8月に開花していたが、シャクジョウソウの開花期は6-8月とされている。（真鍋）



2018年6月10日



2019年6月2日



2019年6月7日



○ツチアケビ

6月2日



ヒメコマツ柵内のツチアケビは7本に増えていました。（真鍋）

6月7日



千年広場南の1本のツチアケビに黒ずむ病変が出始めていました。（中田）

6月9日



↑生長点を喰われ
島入り口の吊り橋終点の急斜面にツチアケビ1本、芽をシカに喰われても背高く生長。（真鍋）

今年の発芽数は千年広場南1+ヒメコマツ柵内7+島入り口1、マダケ林と巨木林柵内はゼロで合計9本。千年広場南の1本その他ヒメコマツ柵内も一部黒変、これは昨夏同定された Phoma 属の病原菌の影響か。（真鍋）

○初夏を彩る花や実



ウメガサソウ(栗山 6/2) イチヤクソウ(栗山 6/14) オニシバリ*(栗山 6/2)

アブラギリ(真鍋 6/2)



イワガラミ(栗山 6/14)

ニガイチゴ(坂本 6/9)

イヌガヤ(栗山 6/14)

*6月9日まで島入り口にオニシバリが鮮やかな赤い実をつけていましたが、5日後の6月14日、実は全て無くなっていました。地面には落ちていないので、鳥に食べられた? 図鑑に「実は美しいが有毒で辛い」とあるが鳥には無害で美味しい? (真鍋)

○畑の作業

土手斜面の草が茂って来たので、刈払機で除草しました。急斜面から転げ落ちないように片足で踏ん張って機械を振り回すのは平地の草刈に比べて何倍も疲れると思います。

一緒に作業した山口さん腰痛や筋肉痛になっていませんか、何はともあれ地主との約束がどうか果たせて一安心ですが、秋までにもう一度刈らなくてはなりません。

作物では、2日の臨時活動日まで里芋の芽出しは順調だったそうですが、その後に葉が食害され葉柄だけの無残な姿になっていました。それにもめげず植物の再生力を信じて真鍋さん持参の鶏糞堆肥を施しました。

ウドは健在で来年が楽しみです。枯草を集めて根元に敷き詰めたので短期的には防草の効果が期待でき、長い目で見れば、微生物やミミズなどの働きで良い土になると思います。

新たな畝を一行作り食用菊も試作してみます。根付きの苗を植えた訳では無く、新芽を挿しただけです。シカに食われなければの条件付ですが、適度な雨により程なく発根するでしょう。徒労に終わるかも知れない作業にお付き合いの皆様ありがとうございました。(坂本)



新たな畝に食用菊試作

○6月17日(月) 晴 臨時活動日 参加: 坂本

17日に予定されていたシャクジョウソウ?調査は前日急に不要になったのですが、それに代わる臨時活動として、畑周辺の草刈りと畑作業を行いました。(坂本)

お知らせ

○7月定例活動日

7月21日(日) 光環境調査(着葉季)、危険木処理、農地草刈り、植物・野鳥・昆虫調査を予定しています。また、ギャップ林の保護柵の野兎侵入穴の補修を行います。周囲の刈払いが必要です。チェーンソー、刈払い機をお持ちの方は持参ください。清和自然休養村管理センター(直売所) 駐車場 9時30分集合です。

なお夏のきのご観察会は8月18日(日曜日)です。詳細の実施計画は7月にお知らせします。